

京都「交流」の考古学

— 縄文・弥生・古墳時代の交流史 —

【基調報告】

1. 縄文時代の“京都”における交流 - 主に府内の遺跡からみた地域間交流 -
加藤雅士 P 1 ~ P 4
2. 弥生時代の“京都”における交流 - 新しい文化の伝来とクニの誕生 -
肥後弘幸 P 5 ~ P12
3. 古墳時代の“京都”における交流 - 日本海と瀬戸内を結ぶ道 -
細川康晴 P13 ~ P19

【シンポジウム】

古代「京都」の日本海交流 P21 ~ P24
コーディネーター 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター理事
兵庫県立考古博物館名誉館長 石野 博信

パネラー 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター職員
加藤雅士 肥後弘幸 細川康晴

日時：平成27年8月22日（土） 午後1時30分～4時30分

場所：向日市民会館 第1会議室

主催：京都府教育委員会

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

後援：向日市教育委員会

縄文時代の“京都”における交流

—主に府内の遺跡からみた地域間交流—

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

加藤雅士

1. はじめに

縄文時代は土器の使用が始まった時代で、土器を使うことにより煮炊きする調理が可能となりました。その結果として植物利用の幅が大きくひろがり、狩猟・採集を中心とした時代が1万年以上続きます。

京都府内は全国的に縄文遺跡が多いところではありませんが、京都市左京区にある北白川遺跡群が継続的に調査されており、西日本における縄文時代研究をリードしてきました。近年では乙訓周辺の縄文遺跡群の調査が進み、関西を代表する縄文遺跡群として認識が進みつつあります。今回は府内の各遺跡で出土した石器や土器をはじめ、確認された遺構などから縄文時代の交流を考えてみたいとおもいます。

2. 二上山産サヌカイト

第二外環状道路建設にともない発掘調査を実施した長岡京市の友岡遺跡・伊賀寺遺跡では、縄文時代の石器が多く出土しました。石器のうち、打ち欠いて作る打製石器は、ほとんどがサヌカイトという石材が使われています。サヌカイトの表面は風化により灰白色ですが、割ると真っ黒な色をした安山岩あんざんがんです。硬質で鋭く割れるため、旧石器時代以来、石器の石材として使われてきました。近畿地方では奈良県と大阪府の境にある二上山にじょうざんに産出地があり、友岡遺跡・伊賀寺遺跡とは直線距離にして約42km離れています。友岡遺跡・伊賀寺遺跡では石器の完成品のほかに、サヌカイトの原石や石器を作る際に出た石の屑がでています。このため、遺跡内で石器を作っていたことが分かります。

こうしたありかたは友岡遺跡・伊賀寺遺跡に限らず、ほかの縄文遺跡でも同様であったと考えられています。二上山のサヌカイトは山城地域を中心に使われており、原石が流通していたと考えられています。向日市石田遺跡ではサヌカイトの大型の破片が出土しており、流通の中継地の可能性が指摘されています。

二上山は40km以上離れた遠隔地とはいえ、打製石器だせいせつきは日常生活で使う道具ですから安定したサヌカイトの流通があったと考えられます。

3. 他の石材

木津川市^{とうろうじ}燈籠寺遺跡、亀岡市^{ろくや}鹿谷遺跡、福知山市^{なかのだん}仲ノ段遺跡、舞鶴市^{しだか}志高遺跡からは黒曜石^{こくようせき}の剥片^{せきぞく}や石鏃^{せきぞく}が出土しています。黒曜石は溶岩が急速に冷えて固まったものです。黒色、透明で鋭く割れるため、東日本などでは石器の石材として一般的に使われましたが、関西では産出地がなく、遺跡からもほとんど出土しません。仲ノ段遺跡のものは化学分析の結果から、信州産、鹿谷遺跡のものは肉眼観察^{あき}で隠岐産とみられています。

他にも下呂石^{げろいし}、翡翠^{ひすい}、瑪瑙^{めのう}といった府内では採れない石材が出土しています。これらは単独で少量出土することが多く、遺跡内で作られたものとは考えられません。二上山のサヌカイトの場合とは違い、多くの遺跡で見られるというわけでもないことから、遺跡外で作られたものが製品として持ち込まれたと考えられます。

翡翠や瑪瑙は現在でもアクセサリーに使われるような石材で、縄文時代でも装身具の石材として使われています。その見た目の美しさから多くの人の手を渡り、京都府内の遺跡にもたらされたものと考えられます。

4. 土器・遺構

(1) 土器

京丹後市の平^{へい}遺跡では縄文早期～晩期までの土器が出土しています。そのうち、縄文中期～晩期では隣接する北陸系土器が出土しています。また、晩期の東北地方を中心とする土器である^{かめがおか}亀ヶ岡系土器も出土しています。同様の土器は京都市^{たかくらのみやかそう}高倉宮下層遺跡から出土しているほか、京都市^{きたしらかわおいわけちょう}北白川追分町遺跡、向日市^{かいで}鶏冠井遺跡で中部地方を中心とする^{ふせんもん}浮線文系土器が出土しています。このように他地域の土器が出土することもあります。後期前葉の関西の縄文時代の遺跡から出土する土器群には、地元で作られた東日本系の土器が一定量伴って出土しています。地域間の交流の複雑さが伺えます。

(2) 「生駒西麓産」土器

縄文時代から古墳時代にかけて、関西の広い範囲で同じような粘土でつくられた土器が出土することがあります。具体的には、土器の材料となる粘土への混ぜものです。色は「チョコレート色」と表現されています。粘土は1mm程度の^{かくせんせき}角閃石という黒く輝く鉱物が混ぜられています。東大阪などで出土する土器の胎土や色調に似ていることから「^{いこませいろくさん}生駒西麓産」とよばれていますが、本当に生駒西麓で作られているのかも含めて問題となっています。

関西の縄文時代において、この「生駒西麓産」の土器が増えるのは早期前半、後期前葉、

後期末、晩期末などと時間を空けて繰り返し起きる現象です。なぜ広域で、同じような土器が作られるのかは不明ですが、粘土や混ぜものの自体が流通していた可能性があります。

(3) 遺構

長岡京市伊賀寺遺跡では縄文時代中期末の住居跡がみつかりました。住居跡のほぼ中央には、石を方形に組んだ1辺約1mの石囲炉いしがこいろを確認しました。石囲炉はもともと東日本に多い遺構ですが、中期末には関西でも多く見られるようになります。これだけではなく縄文中期末～後期にかけて、関西では東日本の影響が確認できます。たとえば舞鶴市桑飼下遺跡くわがいしもでは打製石斧だせいせきふが多量に出土しています。関西の遺跡で打製石斧が多量に出土するのは珍しく、中部地方を中心にカタクリやワラビなどの根茎類こんけいるいを採るために多く使用されていたと考えられています。桑飼下遺跡の例はこの影響を受けていると考えられています。このほか土器などでも東日本の影響がみられます。

ちょうどこの時期は関東・中部では遺跡数が減り、関西では遺跡が増えている時期です。「東日本文化複合体」ともいえるものが、この時期の関西の遺跡で多く見られることについては、人間の移動が背後にあると考えられています。

5. まとめ

関西の縄文時代の集落はたてあなたてもの竪穴建物が1～2棟程度で、人口でいえば10人を大きく超えない程度の小規模なものであったことがわかっています。そのなかで周辺の自然資源をうまく利用しながら生活していたとみられますが、一方で石器の石材を遠隔地に求めており、単純に「地産地消」的には理解できないのが面白いところです。周辺に集落が多く存在しているわけでもないのに、集落を存続させるためには近親婚を避けることも考慮したうえで、遠隔地を含めた他の集落と婚姻関係を結ばなければなりません。当時の寿命や子供の数を考えると、これは数年に一度の割合で頻繁におこる問題でした。縄文時代の交流を生んだ背景には、こうした縄文人のネットワークがあった可能性があります。

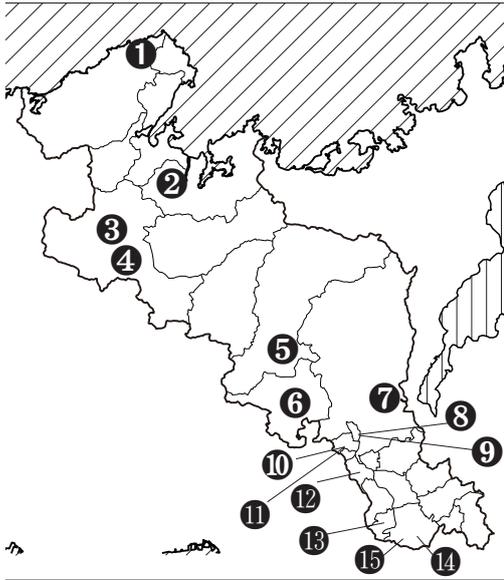


図1 関連遺跡分布図

1. 平遺跡 (京丹後市)
2. 桑飼下遺跡 (舞鶴市)
3. 仲ノ段遺跡 (福知山市)
4. 岡ノ遺跡 (福知山市)
5. 室橋遺跡 (南丹市)
6. 鹿谷遺跡 (亀岡市)
7. 北白川追分町遺跡 (京都市)
8. 石田遺跡 (向日市)
9. 鶏冠井遺跡 (向日市)
10. 伊賀寺遺跡 (長岡京市)
11. 友岡遺跡 (長岡京市)
12. 木津川河床遺跡 (八幡市)
13. 棕ノ木遺跡 (精華町)
14. 例幣遺跡 (木津川市)
15. 燈籠寺遺跡 (木津川市)

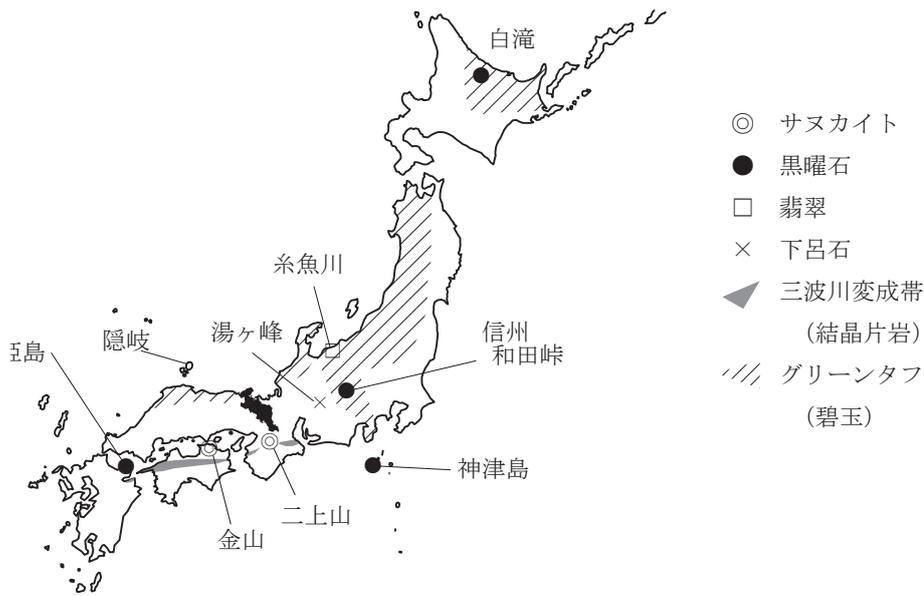


図2 おもな石材産地

表 京都府の縄文遺跡でみられる遠隔地系石材

石材	遺跡名	備考
黒曜石	仲ノ段遺跡	信州産
	鹿谷遺跡	隠岐産
	例幣遺跡	信州産
	燈籠寺遺跡	
結晶片岩	岡ノ遺跡	
下呂石	木津川河床遺跡	
	例幣遺跡	

石材	遺跡名	備考
蛇紋岩	平遺跡	磨製石斧
	仲ノ段遺跡	切目石錘
	伊賀寺遺跡	磨製石斧
翡翠	棕ノ木遺跡	大珠
碧玉	伊賀寺遺跡	
	平遺跡	
	室橋遺跡	

※可能性が指摘されているものも含める

弥生時代の“京都”における交流

—新しい文化の伝来とクニの誕生—

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

肥後弘幸

1. はじめに

今からおよそ 2500 年前から 1800 年ほど前にあたる弥生時代の人々の交流のあり方についてお話します。その流れは概ね次のとおりです。

弥生時代の始まりは、稲作農耕文化の定着によるものと考えられています。南北に長い京都府では、弥生時代の始まりは、淀川水系である山城と南丹波、日本海側に面した丹後・北丹波の南北 2 地域で別々に起こったようです。やがて、弥生時代中期には、各地に大きなムラが誕生しムラを中心とした物流のネットワークができます。今から 2000 年ほど前の後期になると、各地域に特色のある文化が認められ、独自の政治的交流が行われるようになり、やがて、ヤマト王権を中心とした初期国家が誕生するようです。

2. 弥生時代前期の様子

およそ 2500 年前、米作りの普及に伴い弥生時代が始まります。その様子は、^{のうこう}農耕に伴う新しい道具、広く西日本に分布する^{つぼがた}壺形土器（以下壺という）と^{かめがた}甕形土器（以下甕という）に代表される^{おんががわしき}遠賀川式土器の広がりで見られます。壺は、^{たねもみ}種籾を貯蔵した容器と考えられ、甕はお米を炊くための^{すいはんぐ}炊飯具です。この壺と甕のセットの分布は、第 1 図に示したように若狭湾と濃尾平野が東端です。初期の弥生文化は人とともにここまで広がりました。

南北に長い京都府では、南部と北部では弥生文化がもたらされたルートが瀬戸内海ルートと日本海ルートと経路が違うようです。日本海側には^{とうけん}陶墳と呼ばれる土笛（第 2 図）と^{かいらせもん}貝殻施文の土器の分布から海沿いに文化が伝わった様子がわかります。弥生時代前期の水田遺構は、京都大学の構内で見つかっています。高槻市^{あま}安満遺跡と似た構造で、奈良県^{なかにし}中西遺跡、大阪府^{いけしま}池島・^{ふくまんじ}福万寺遺跡（東大阪市・八尾市）の水田とも似ています。稲穂を刈り取る^{いしぼうちょう}石庖丁は府南部では、各遺跡から出土していますが、府北部ではほとんど出土しません。米作りのあり方も南北で大きく異なっていたのかもしれませんが。

与謝野町^{あつえ}温江遺跡からはいれずみのないすっきりした顔立ちを表現した土製品が出土しています。よく似た表現の土器が、松江市^{にしかわづ}西川津遺跡からも出土しています。一方、瀬戸

内海地域では、香川県さぬき市鴨部・川田遺跡からいれずみのある人面土器が出土しています。少し時期は下がりますが、茨木市目垣遺跡では中期前半の丸顔の人面土器が出土しました。中期の向日市森本遺跡の人面土器は、壺の胴部に表現されたもので、東海地方の影響を受けたものと考えられます。

2. 弥生時代中期の様子

今から 2200 年ほど前の弥生時代中期になると、府内各地に大きなムラ、いわゆる拠点集落が誕生します(第4図)。拠点集落は 5～10km ほどの間隔で分布し、その周辺に小さなムラがあり、ネットワークを結んでいたと考えられています。拠点集落では、石器作り、玉作り、鉄やガラスの加工などを行っていた工房がありました。

巨椋池の南岸にある久御山町市田齊当坊遺跡では、磨製石剣と碧玉製の管玉の生産を行っていました。出土した石剣には他地域からもたらされた古いタイプのもものもあります。碧玉の原石は日本海側から、工具の石鋸は和歌山県あたりから運び込まれたものです。長岡京市神足遺跡でも、石剣と玉の生産が行われていました。

京丹後市奈具・奈具岡遺跡群では、二つの玉作り工房が見つかりました。一つの工房では伝統的に碧玉製の管玉類を、あとからできた工房では、水晶による玉作りと鉄製品やガラス製品の再加工を行っていました。水晶は、丹後半島に産地がありますが、鉄素材は朝鮮半島から、そしてガラスは、おそらく中国大陸から朝鮮半島を経由してもたらされたものだと考えられます。水晶製小玉は、奈良県田原本町の唐古・鍵遺跡や高松市の太田原高州遺跡などで出土しています。丹後の人は、朝鮮半島では、この水晶玉と交換して鉄製品や鉄素材、ガラスなどを得ていたのかもしれませんが。

由良川の河口から 10km ほどの舞鶴市志高遺跡では、船着き場遺構が見つっています。また、河川改修事業中に河底から貝の入った弥生土器が出土しました。中に入っていたのは、キイロダカラと呼ばれるタカラガイで、太平洋岸と東シナ海の対馬まで生息する貝です。装身具として利用されたのかもしれませんが。港を利用した海上交通が目につかびます。この遺跡からは銅剣形石剣が出土しています。銅鐸や銅剣形石剣は、加古川・由良川経由で日本一低い標高 95 m の分水界を経由して近畿北部に入ってきます。(第5図)瀬戸内海側から日本海側に至る交通網がここにありま。

ところで、大正 14 (1925) 年に舞鶴市匂ヶ崎で民家から二口の銅鐸が見つっています。これらの銅鐸は、宝暦年間に宮津市由良で見つかった二口の銅鐸の可能性が考えられますが、近畿式銅鐸と三遠式銅鐸と種類の異なる銅鐸なのであることが特徴的です。三河・遠江で製作された三遠式銅鐸は、西は滋賀県までしか出土していませんので、どのルートで

どのような理由でこの銅鐸がこの地まで運ばれてきたのでしょうか。昨年度当センターが実施した舞鶴市大川遺跡おおかわの発掘調査で濃尾平野を中心に分布する円窓付土器まるまどつきどきが出土しました。由良川・加古川の道とは別に東からの道の存在を考えないといけません。

円窓付土器は亀岡市時塚遺跡ときつか、南丹市池上遺跡いけがみの方形周溝墓ほうけいしゅうこうぼからも出土しており、東海地方と京都府中・北部の間で広い交流が存在していたのかもしれませんが。

このほか、他地域との交流を示す資料に、長岡京市雲宮遺跡くもみやや綾部市観音寺遺跡かんのんじで出土した吉備地方で流行った分銅形土製品ぶんどうがたどせいひんがあります。

このように弥生時代中期は、拠点集落を中心とした地域間ネットワーク以外に、北部九州、吉備、山陰、東海と各地との交流の様子をうかがい知る資料が増えつつあります。

3. 弥生時代後期の様子

西暦1世紀から2世紀は弥生時代後期と呼ばれる時代です。気候変動や震災もしくは、戦争や病気によるものなのかわかっていませんが、中期の終りに府内の大きな集落遺跡は解体してしまうため、後期の集落の様相やネットワークの様子などはよくわかりません。

しかし、全国的に土器に地域色が強くなること、独自の墓制ぼせいが誕生することなどから、各地に独自の文化が誕生し、やがて、奈良盆地に誕生した初期ヤマト王権が、前方後円墳ぜんぽうこうえんふん体制のもと初期国家としての成長することがわかっています。ここでは、たくさんの墳墓ふんぼの調査が行われている丹後を中心に後期の交流の様子をうかがってみましょう。3世紀初めの日本の様子を伝える魏志倭人伝ぎしわじんてんには「現在使役を通じること30国」と記されています。北近畿も30国のひとつのクニだと私は考えます。このクニの首長をここでは王として話をすすめます。

丹後では山の上からたくさんの墳墓が見つかっています。後期初頭の三坂神社みさかじんじや3号墓では、中心の大きな埋葬施設からは第9図に示すようにたくさんの副葬品ふくそうひんが出土しました。頭には、ガラス管玉くだたまのヘアバンドと水晶玉すいしょうだま・ガラス小玉こだま・ガラス勾玉まがたまからなる垂れ飾りたかざりがありました。丹後のどこかで水晶玉の生産が継続していたようです。頭の右横にはやりがんなが、左腰には中国製と考えられる素環頭鉄刀そかんとうてつとうがありました。左半身に沿って黒漆を塗った杖状木製品つえじょうがありました。三坂神社墳墓群では、近くの左坂墳墓群ささかと併せて1万点ほどのガラス製品が出土しています。どのようなルートでもたらされたかが課題です。

この時期の素環頭鉄刀や刀は、丹後の3例、鳥取の1例以外は北部九州の5例しか出土例がなく、北部九州の桜馬場遺跡さくらのばばは伊都国の王墓いとこくおうぼ、平原遺跡ひらばると井原鎧溝遺跡いはらやりみぞは奴国の王墓なこくとされるもので、これらは後漢王朝からの下賜品かしのひんとも考えることもできます。

ガラス小玉は、近畿北部より東では、南丹波・近江・東海・信濃、そして関東平野でも

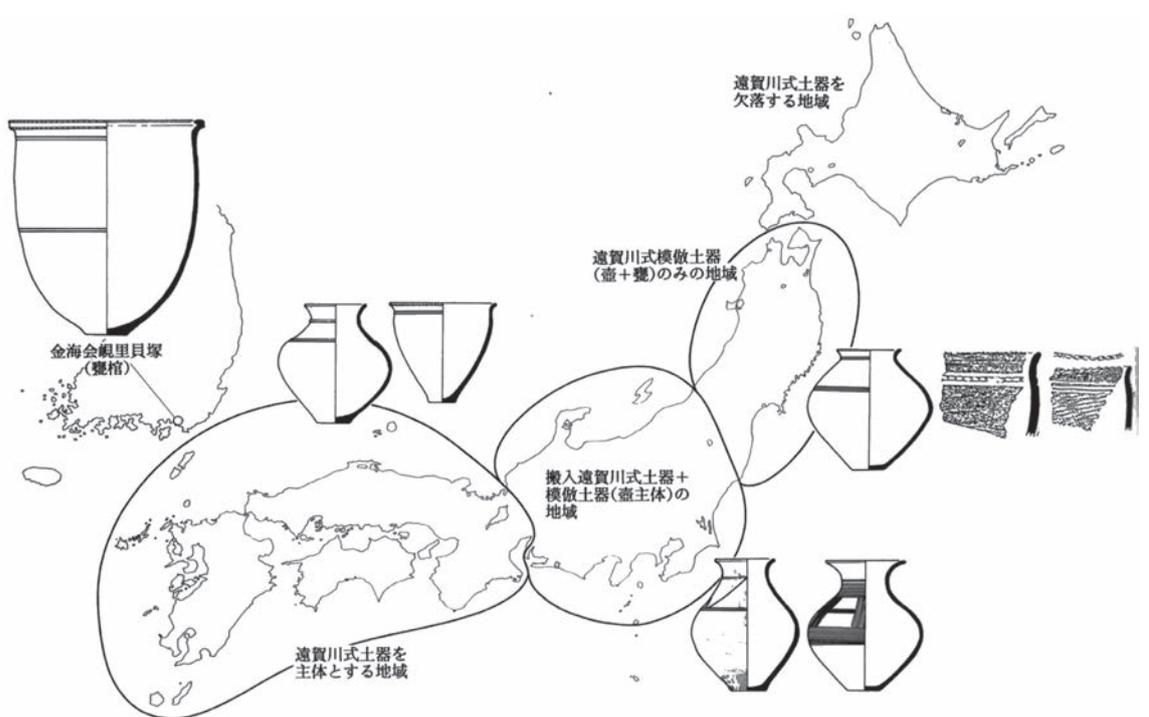
出土しており、これらの地域への伝播は、丹後を起点に考えることができます。

北近畿の墓制の特色の一つに、埋葬後に棺蓋の上や周りに割った土器をばらまくという風習「墓壙内破碎土器供献」があります。丹波の中北部と丹後・但馬に分布圏があり、この範囲を北近畿の当時のクニの勢力範囲と考えることができます（第7図）。これらの範囲を超えて、高槻市古曾部遺跡、福井市小羽山墳墓群そして長岡市屋鋪塚遺跡でも行われておりより遠くの地域との人の交流が窺えます。

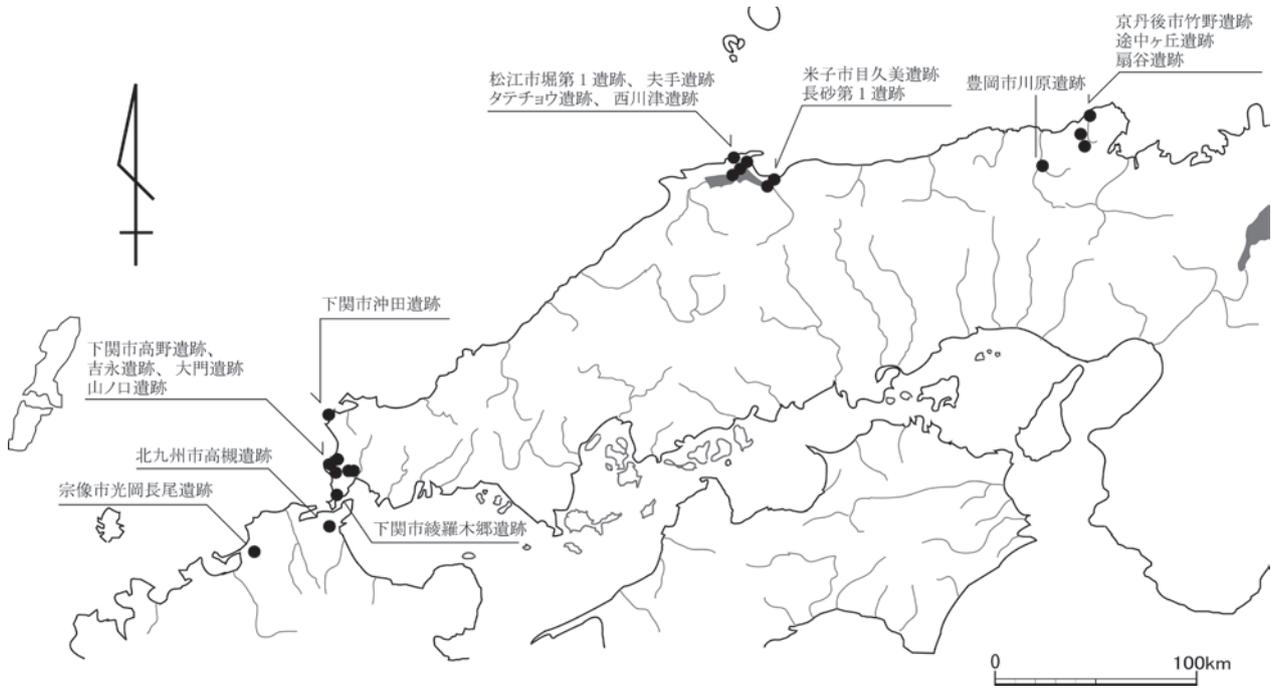
後期後半の与謝野町大風呂南1号墓では、くりぬき式の舟底状木棺の中に多数の副葬品が見つかりました（第9図右）。銅釧13、貝釧1、ガラス釧1、碧玉管玉272、ガラス勾玉10、鉄剣11、鉄鏃4、ヤスなどがあります。剣は、関部に二つの孔が空いている（刃関双孔）ものも多く、全国から多数見つかっていますが、最近、信濃や関東での発見が増えつつあります（第8図）。やはり、丹後を起点に北陸、東海、信濃、関東との物流が窺えます。被葬者の胸から左腕あたりで、カリガラス製の蒼いガラス釧が出土しました。よく似た形の石釧やガラス釧は中国南部に存在します。どのようなルートでもたらされたかが課題です。2号墓からは東海地方や北陸地方の土器が出土しています。出土した円礫は後に述べますように吉備との関わりを示しています。このように大風呂南1・2号墓には、各地との交流のようすがみられ、多量の鉄剣の存在から、被葬者は当時倭人が鉄を求めた朝鮮半島と通じ、交易を支えた人物と考えられます。

弥生時代も終わり頃、3世紀のはじめに、丹後最後の王墓、赤坂今井墳墓が築かれます。一辺30mを超える大きな方形の墳丘を持ち、その姿は、西谷3号墓など出雲の王墓である四隅突出型墳丘墓に似ています。巨大な埋葬施設の上面から破碎した土器と円礫が出土しており、そのあり方は、吉備の王墓楯築遺跡の様相と似ています。破碎した土器には東海地方、北陸地方などの土器が含まれていました。第4埋葬施設からは、ガラス製の勾玉・管玉、碧玉製の管玉など多数の玉から構成された豪華な頭飾りが出土しています。頭飾りからは中国大陸で使われている着色材が含まれていました。

丹後の3つの弥生王墓は、北部九州を除けば他地域に例をみない豊富な鉄製品、装身具などから朝鮮半島や中国大陸との交易に関わった人物の墓と推定され、中継地として、北陸、東海、山陽、山陰そして北部九州と交易を行ない、北近畿の発展を支えた人物と考えられます。赤坂今井墳墓以降、大きな墳墓は姿を消しますので、初期ヤマト王権が誕生すると、独自の交易ができなくなったことが予想されます。時代は、地方の豪族（クニの王）が各地と積極的に交易（交流）をしていた時代から、初期ヤマト王権による一元的な交易を行う時代へと変化していくことが予想されます。



第1図 遠賀川式土器の普及(「出典：図解日本の人類遺跡」1992)



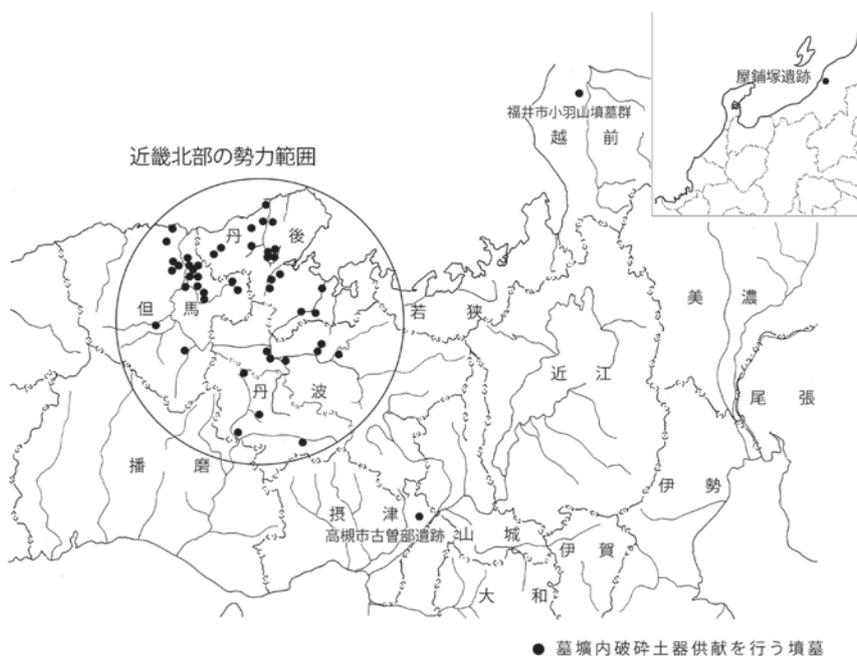
第2図 日本海側に広がる陶埴(土埴)の分布



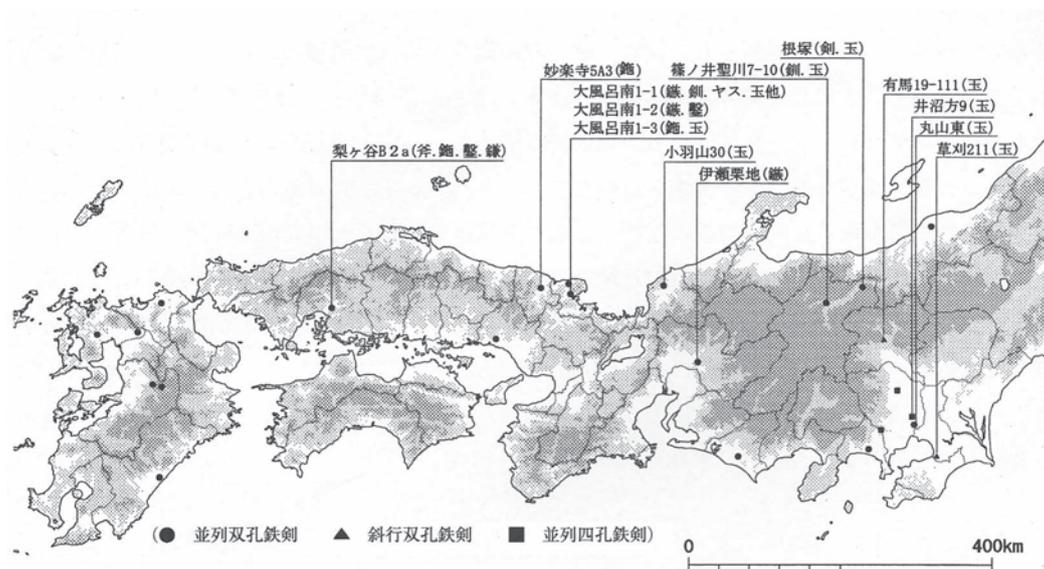
第3図 与謝野町温江遺跡と向日市森本遺跡の人面土器



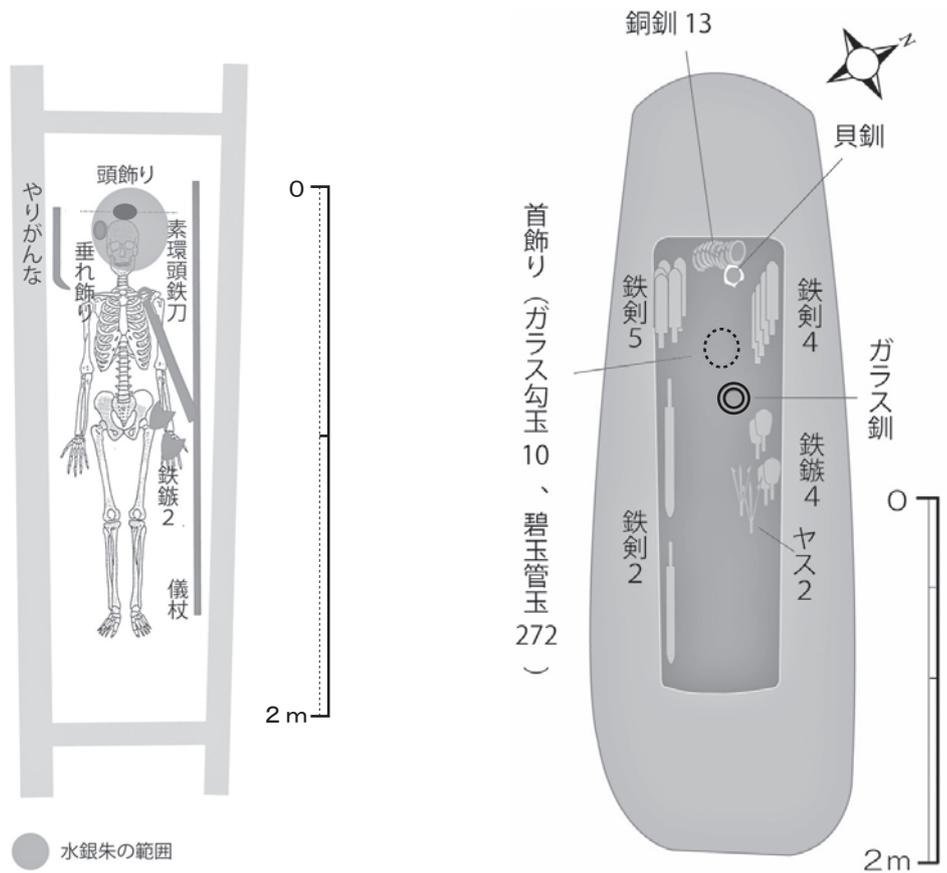
第6図 素環頭鉄刀及び鉄刀の出土墳墓と共伴する副葬品
 (野島永「弥生時代後期から古墳時代初頭における鉄製武器をめぐって」2004)



第7図 墓墳内破碎土器供献の分布



第8図 刃関双孔鉄劍の出土墳墓と共伴する副葬品
 (野島永「弥生時代後期から古墳時代初頭における鉄製武器をめぐって」2004)



第9図 三坂神社3号墓(左)と大風呂南1号墓(右)の中心埋葬施設の模式図



第10図 弥生時代終わりの東アジア

古墳時代の“京都”における交流

－日本海と瀬戸内を結ぶ道－

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

細川康晴

1. はじめに

古墳時代の交流－基本は前方後円墳の時代における政治的交流の結果が古墳の墳形、埋葬施設、副葬品等の各要素に表されている。

京都府の各地域

・丹後地域

野田川流域（与謝野町、宮津市ほか） 竹野川（福田川含む）流域、佐濃谷川流域、川上谷川流域（京丹後市）

・丹波地域

北丹波 由良川流域（福知山市、綾部市、舞鶴市）

南丹波 保津川流域（亀岡市、南丹市ほか）

・山城地域

北山城 桂川右岸（乙訓）（向日市、長岡京市、大山崎町、京都市）、桂川左岸（嵯峨野）（京都市）

南山城 宇治川、木津川流域（宇治市、城陽市、木津川市、八幡市、京田辺市ほか）

2. 古墳時代前期の交流－定型化した前方後円墳の成立－

（1）国内の交流

○前方後円墳 ヤマト王権の同盟のしるし

・墳形 前方後円形 向日市 五塚原古墳

・埋葬施設 コウヤマキ製割竹形木棺 + 竪穴式石槨

・副葬品 さんかくぶちしんじゅうきょう 三角縁神獸鏡 南山城 木津川市椿井大塚山古墳

わんしよくるい 石製腕飾類 丹後 京丹後市カジヤ古墳 北陸産石材

つつがたどうき 筒形銅器 丹後 京丹後市カジヤ古墳 大型円墳

○前期の石棺 割竹形木棺とは異なる地域の独自色が強い棺

・石棺せつかんの移動

南山城 八幡市茶臼塚古墳 あそようけつぎょうかいがんせいふながたせつかん 阿蘇溶結凝灰岩製舟形石棺

- ・石棺工人の移動

丹後 京丹後市大田南5号墳 ぎょうかいがんせいくみあわせしきせつかん 地元産凝灰岩製組合式石棺

与謝野町蛭子山古墳 かこうがんせい 地元産花崗岩製舟形石棺 造り付け石枕 いしまくら

○埴輪 はにわ

- ・特殊器台形埴輪 とくしゆきだいがたはにわ 向日市元稻荷古墳
- ・山陰系円筒埴輪 さんいんけいえんとうはにわ 与謝野町谷垣遺跡
- ・丹後型埴輪 たんごがたはにわ 丹後の王墓に共通するきわめて独自色の強い埴輪

○前方後方墳

北山城 向日市元稻荷古墳

○古墳の祭祀・儀礼

丹後 与謝野町蛭子山古墳 とり 鶏形土製品、犬・猪形土製品 いのしし
与謝野町白米山古墳 くもつ 供物形土製品

(2) 海外からもたらされたもの

○副葬品

鉄製品は製品（刀剣等）もしくは素材（鉄鋌）てつていとして輸入

銅製品は製品として流入し、国産化も始まる

- ・銅鏡
 - ・内行花文鏡 ないこうかもんきょう 中国後漢から
 - ・方格規矩四神獣鏡 ほうかくきくししんじゅうきょう 中国後漢から
 - ・画文帯神獣鏡 がもんたいしんじゅうきょう 三角縁神獣鏡以前のまとまり
 - ・三角縁神獣鏡 中国魏から？
 - ・その他の後漢鏡 ひきんもんきょう 飛禽文鏡
- ・筒形銅器・巴形銅器 ともえがたどうき 朝鮮半島南部製か日本製か
- ・鉄製品 木津川市椿井大塚山古墳 かぶと かんむり 兜か冠

素環頭大刀

3. 古墳時代中期の交流 - 巨大古墳・倭の五王の時代 -

(1) 国内の交流

○長持形石棺 ながもちがたせつかん

- ・石棺の移動
 - ・竜山石製長持形石棺 たつやまいし 城陽市久津川車塚古墳
- ・石棺工人の移動

地元産長持形石棺 京丹後市産土山古墳

(2) 海外からもたらされたもの

○副葬品

・鉄製品

たてはぎいたかわとじかぶと
 豎矧板革綴冑 八幡市八幡大塚古墳

てつくわすきさき
 U字形鉄鍬鋤先 中小の古墳にも副葬

とうしつどき
 ・陶質土器

京丹後市奈具岡北1号墳 豊富な器種構成

城陽市芝ヶ原9号墳

おびかなぐ
 ・帯金具

京都市穀塚古墳

4. 古墳時代後期の交流－横穴式石室の時代－

(1) 国内の交流

○埋葬施設

いえがた
 ・家形石棺の移動

にじょうさんほくしよくぎょうかいがんせいいえがたせつかん
 二上山白色凝灰岩製家形石棺 向日市物集女車塚古墳

よこあなしきせきしつ
 ・横穴式石室構築工人の移動

畿内型石室（右片袖式） 物集車塚古墳

いしだな
 石棚 亀岡市拝田16号墳 岩橋形石室（紀伊型）の模倣

せきしょう
 石障（棺内分割）北部～中南部九州の棺の配置と共通

○副葬品

かんとうち
 ・環頭大刀

そうりゅうかんとうち
 双龍環頭大刀 京丹後市湯舟坂2号墳 高麗劍 日本海側に分布 蘇我氏との関係

・馬具

向日市物集車塚古墳 かがみいたつきつわ f字形鏡板付轡・けんびしがたぎょうよう 劍菱形杏葉

福知山市奉安塚古墳 きょくようけいかのみいたつきつわ 棘葉形鏡板付轡・杏葉

すえき
 ・須恵器

すえむら
 陶邑から運ばれた須恵器

角杯形須恵器 - 若狭との交流 - 京丹後市大耳尾古墳

(2) 海外からもたらされたもの

○副葬品

じとう
 ・耳瑠 京丹後市峰山桃谷古墳 国内唯一の出土例



1 青龍三年銘鏡



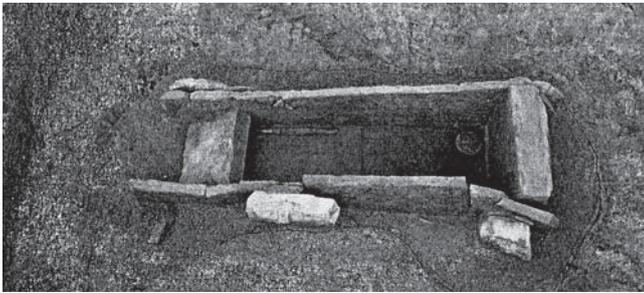
2 景初四年銘鏡



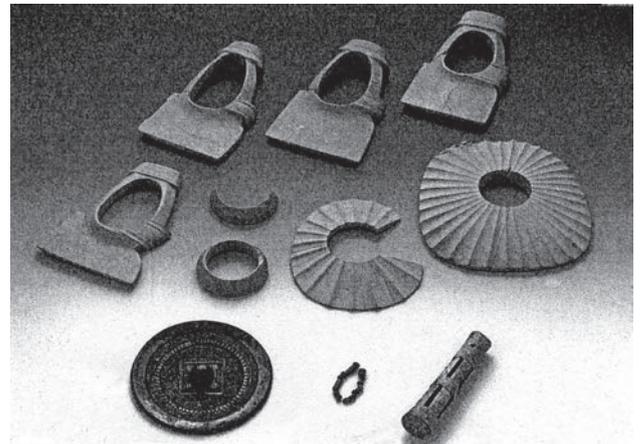
3 三角縁仏獣鏡



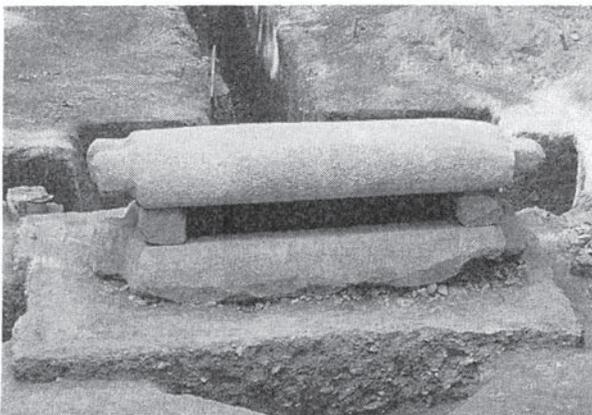
古墳でたどる大和から丹後への道



4 組合式石棺



5 カジヤ古墳出土品



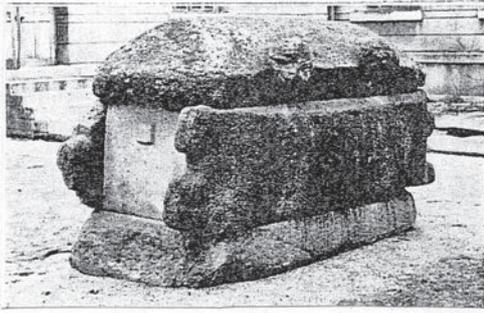
6 舟形石棺



7 丹後型円筒埴輪



8 舟形石棺



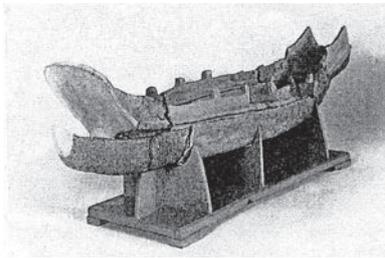
9 長持形石棺



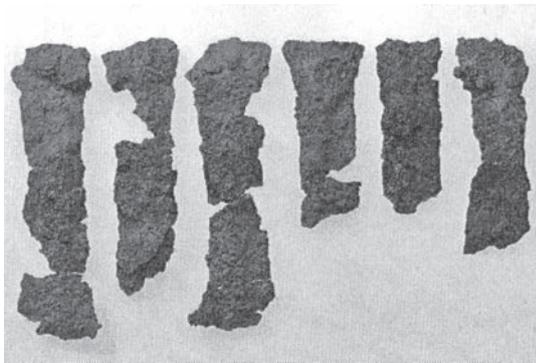
10 長持形石棺



11 埴製枕



12 船形埴輪



13 鉄鋌



14 鉄甲冑



15 陶質土器



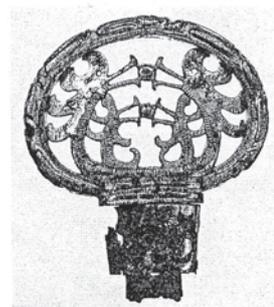
16 鉄釧



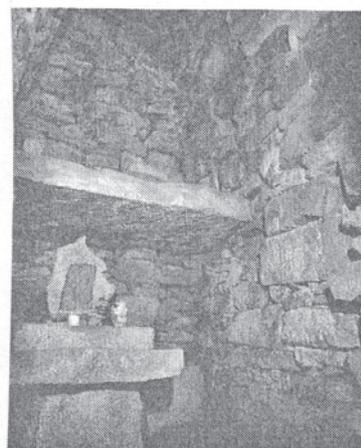
17 横穴式石室・家形石棺



18 單龍式環頭大刀柄頭



19 雙龍式環頭大刀柄頭



20 石柵付横穴式石室



21 裝飾須惠器



22 角杯形須惠器



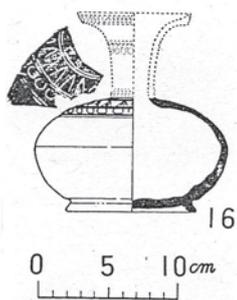
29 横穴式木芯粘土室



23 革袋形須惠器



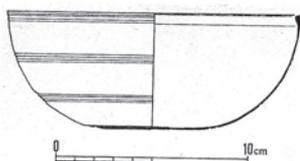
24 特殊扁壺



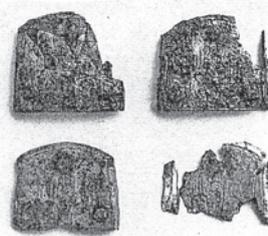
25 陶質土器



26 耳璫



27 銅鈺



28 毛彫水煙文馬具

・古墳時代 前期

- 1 大田南（おおたみなみ）5号墳（京丹後市）
- 2 広峯（ひろみね）15号墳（福知山市）
- 3 園部垣内（そのべかいち）古墳（南丹市）
- 4 大田南5号墳 1と同じ
- 5 カジヤ古墳（京丹後市）
- 6 蛭子山（えびすやま）古墳（与謝野町）
- 7 作山（つくりやま）1号墳（与謝野町）
- 8 八幡茶臼山古墳（八幡市）

・古墳時代 中期

- 9 久津川車塚（くつかわくるまづか）古墳（城陽市）
- 10 産土山（うぶすなやま）古墳（京丹後市）
- 11 産土山古墳 10と同じ
- 12 ニゴレ古墳（京丹後市）
- 13 八幡大塚（やわたおおつか）古墳（八幡市）
- 14 私市円山（きさいちまるやま）古墳（綾部市）
- 15 奈具岡北（なぐおかきた）1号墳（京丹後市）
- 16 穴ノ谷（あなのたに）1号墳（京丹後市）

・古墳時代 後期

- 17 物集女車塚（もずめくるまづか）古墳（向日市）
- 18 岡（おか）1号墳（京丹後市）
- 19 湯舟坂（ゆぶねさか）2号墳（京丹後市）
- 20 拝田（はいだ）16号墳（亀岡市）
- 21 大耳尾（おみお）1号墳（京丹後市）
- 22 大耳尾2号墳（京丹後市）
- 23 谷垣（たにがき）3号墳（京丹後市）
- 24 高山（たかやま）12号墳（京丹後市）
- 25 大覚寺（だいかくじ）3号墳（京都市）
- 26 峰山桃谷（みねやまももだに）古墳（京丹後市）
- 27 湯舟坂2号墳 19と同じ
- 28 千原（ちはら）古墳（与謝野町）
- 29 中坂（なかさか）7号墳（福知山市）

各番号は、16～18頁の挿図番号と一致しています。

【シンポジウム】

コーディネーター

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター理事
兵庫県立考古博物館名誉館長 石野博信

パネラー

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター職員
加藤雅士 肥後弘幸 細川康晴

メモ

古代“京都”の日本海交流

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター理事
兵庫県立考古博物館名誉館長

石野博信

1. 縄文晩期・亀ヶ岡文化の西進（図1）

3000年ほど前、東北地方に華ひらいた亀ヶ岡文化が西進し、北陸海岸を経て奈良盆地に拠点を築いた（^{かしわら}橿原遺跡）。

同文化は、京丹後市平^{へい}遺跡や大阪平野に点々と広がり、ついに淀川をこえて神戸市篠原遺跡に到達する。

2. 弥生後期・紺色のガラス釧が丹後に一与謝野町大風呂南1号墓

弥生中期以降、北部九州に栄えた鉄器文化を近畿で積極的に受容したのは丹後である。そのような動向の中で日本列島の弥生社会できわめて稀なガラス製^{くしろ}釧が丹後の大風呂南1号墓に副葬されていた。

2002年3月、台湾の台東市の国立台湾史前文化博物館を訪れたとき^{ひなん}卑南文化（約3000年前）の石釧の中に大風呂南1号墓と同型の釧があった。その後、2014年4月に台湾大学の人類学陳列室で十三行遺跡のガラス釧に出会った。劉教授によるとB.P.2400～2300年のもので、釧の六角形の断面の仕上げ方は大風呂南1号墓出土品と同じだ。同釧は台湾東海岸には点々とあるが西海岸にはなく、さらに中国大陸では福建省の海岸に類似品らしいものはあるらしい。

台湾先史時代のガラス文化が海流によって日本列島にやってきたのだろうか。

3. 丹後の小古墳から邪馬台国時代の年号鏡—京丹後市大田南5号墳（図3）

日本列島出土の邪馬台国時代の年号を刻む13面の銅鏡のうち4面が日本海沿岸の古墳に副葬されている。そのうちの1面が大田南5号墳の青龍3年鏡であるが、樋口隆康さんは2号墳の画文帯神獸鏡の方がはるかに上質だという（『鏡が語る古代弥栄』27頁）。つまり、年号鏡は古墳の年代や交流関係を検討する上で極めて重要な資料ではあるが、古墳時代人は貴重品とは意識していないことを示す。

4. 墳丘上の鳥—与謝野町蛭子山古墳（図4）

4世紀の丹後3大巨墳の一つである蛭子山古墳の墳頂から鳥形土製品が出土している。鳥の腹部には孔があり、竿の上に捧げられていた鳥竿だ。

3世紀初頭の奈良県纏向石塚古墳には鶏形木製品があり、韓民族資料の葬儀用輿こしや鳥取県淀江町の現代墓の墓屋にも鳥がとまる。福岡県鳥船塚古墳の船の舳先にとまる鳥のように靈魂を運ぶ鳥であろうか。

番外—「あとのまつり」（図5）

椿井大塚山古墳は、多量の三角縁神獸鏡をもつ古墳として著名であり、小林行雄氏によって倭国の女王・卑弥呼が魏から下賜された銅鏡群を各地の王への配布者として位置づけられ、賛同者も多い。

しかし、墳頂部出土の土器群は、古くみても布留2式=4世紀中葉以降であり、卑弥呼の没年（紀元247年か248年）や女王・台与とよが活躍した3世紀後半と100年前後の年代差がある。

私は、2人の倭国女王よりは“あとの大王のまつり”に係わる銅鏡群だと論じた。（石野2005「長突円墳（前方後円墳）は大和王権の政治的記念物か」（『季刊考古学』90. 雄山閣のち石野2006『古墳時代を考える』雄山閣に所収）。

図 1

■ 縄文晩期、亀ヶ岡文化の西進 縄文晩期に多くの東北人がヤマトにやって来たことがわかる

青森県木造町亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶（重文）

（東京国立博物館蔵 Image:TNM Image Archives Source: <http://TnmArchives.jp/>）

奈良県橿原遺跡・奈良県竹之内遺跡出土の土偶と石棒

（奈良県立橿原考古学研究所付属博物館蔵、石野博信撮影） [本文p.63～参照]

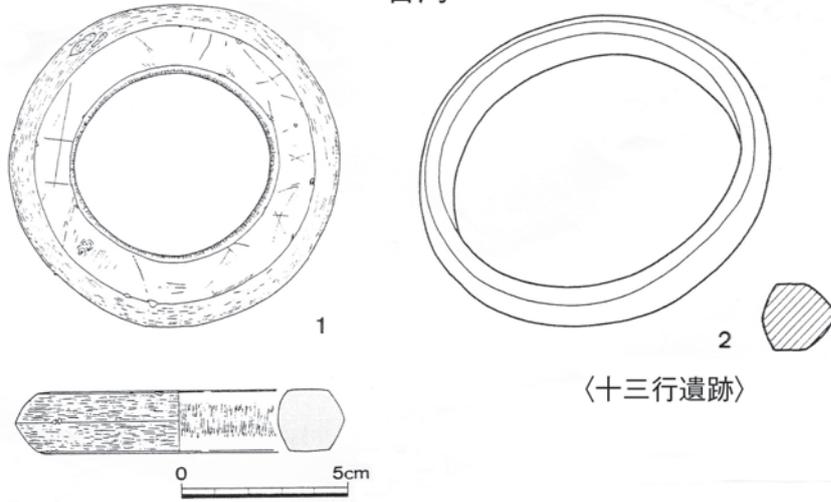


石野2007『楽しい考古学』大和書房に加筆

ガラス釧のみちー台湾・華南・日本海

図2 大風呂南

台湾

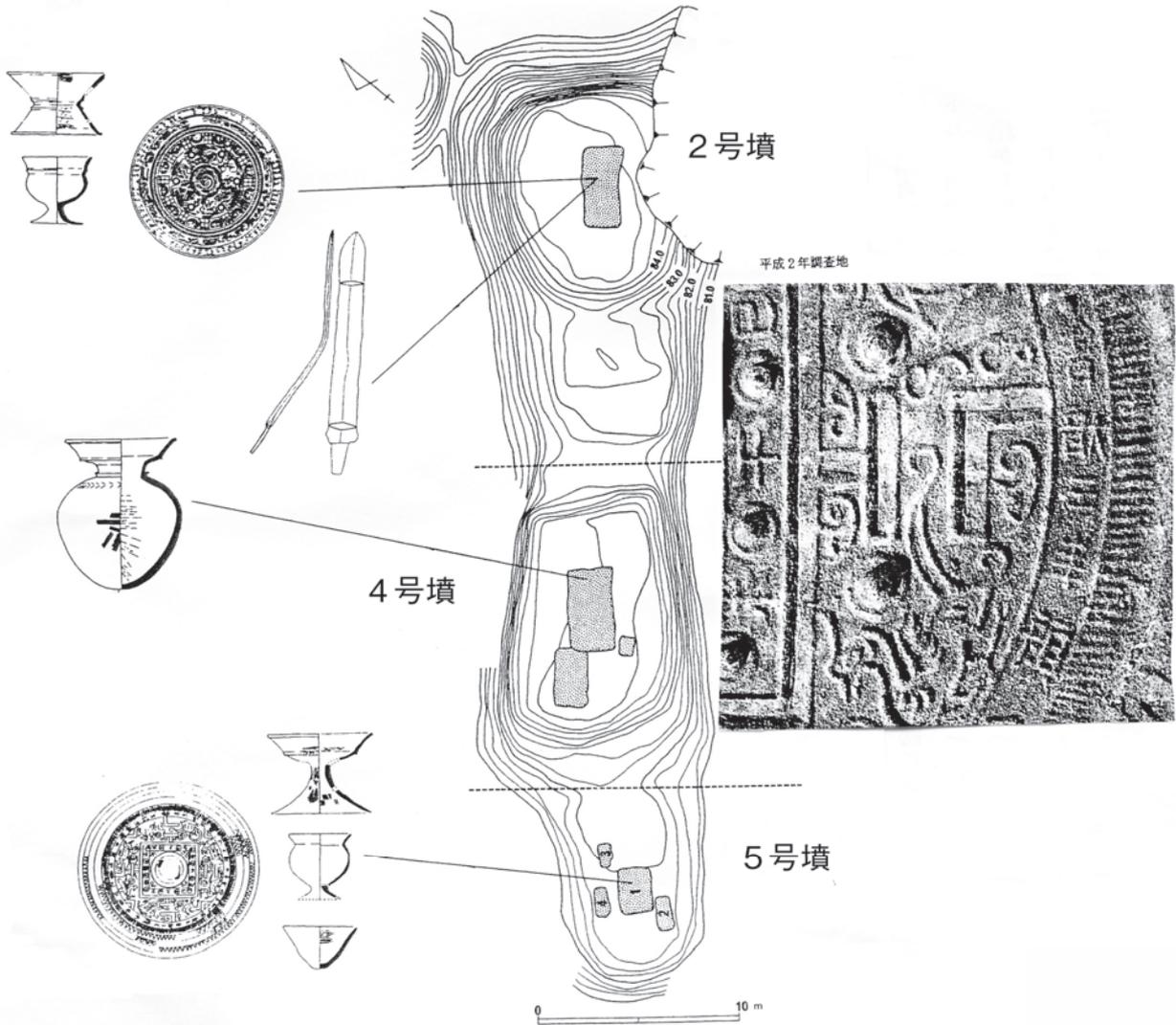


石野2006「丹後・大風呂南1号墳のガラス釧と台湾」

『京都府埋蔵文化財論集第5集』公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

図3

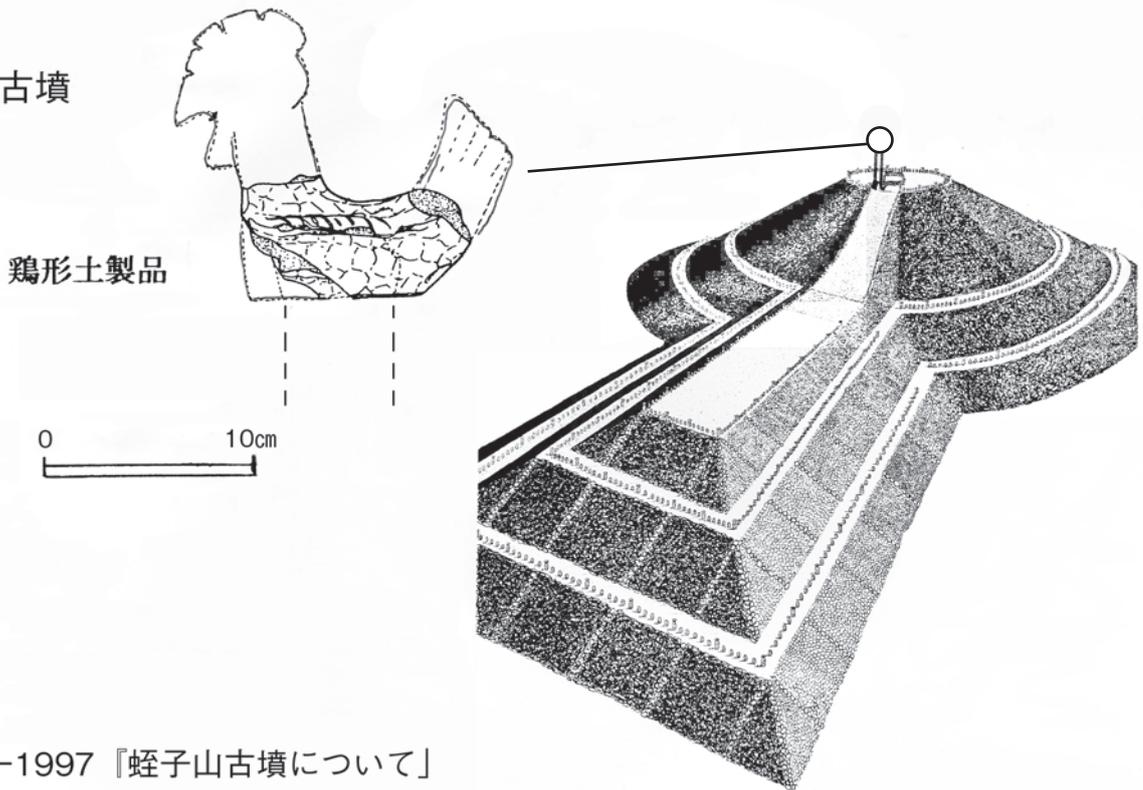
資料 大田南古墳群地形測量図



石野1995「邪馬台国時代の丹後」『鏡が語る古代弥栄』弥栄町

図4

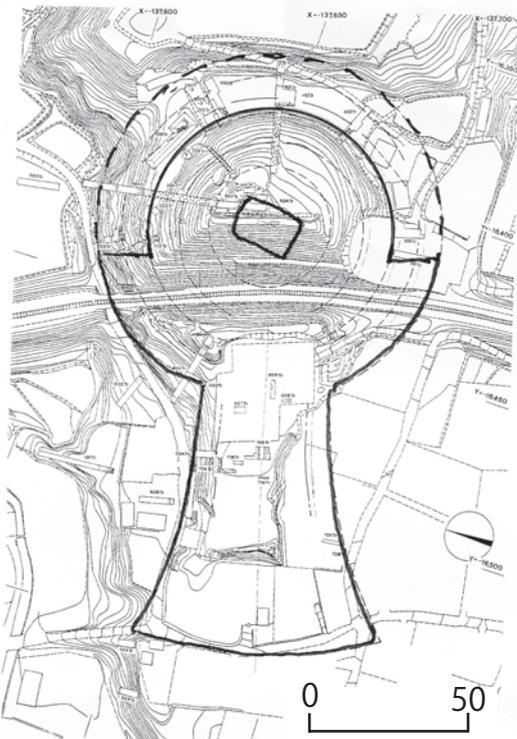
蛭子山古墳



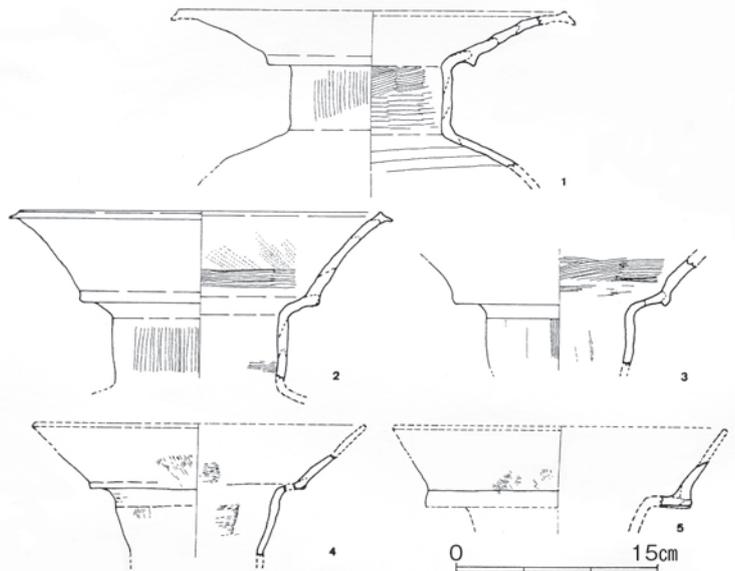
佐藤晃一1997『蛭子山古墳について』

『日本海三大古墳がなぜ丹後につくられたか』加悦町教委に加筆

番外—「あとのまつり」—椿井大塚山古墳



第20図 墳丘復元図



第32図 古墳築造前後の土器①(後円部墳頂付近出土の土器)

中島 正ほか1999『椿井大塚山古墳』山城町教委に加筆

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
 設立 35 周年記念

シンポジウム

やまとごころとからざえ

テーマ：和魂漢才 — 京都「交流」の考古学 —

主催：京都府教育委員会・公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

後援：向日市教育委員会

日時：平成 27 年 11 月 29 日(日) 12:30 ~ 16:30

会場：向日市民会館 ホール (京都府向日市寺戸町中ノ段 17-1)

聴講無料 定員 420 名

奈良時代から安土桃山時代までの東アジアや国内のヒト・モノの交流に迫ります。

展覧会

やまとごころとからざえ

テーマ：和魂漢才 — 京都「交流」の考古学 —

主催：京都府・京都文化博物館

京都府教育委員会・公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

期間：平成 27 年 11 月 28 日(土) ~ 平成 28 年 1 月 11 日(月・祝)

会場：京都文化博物館 2階総合展示室 (京都府京都市中京区三条高倉)

入館料：500 円

京都府埋蔵文化財調査研究センターが発掘した、京都における「交流」に関する遺物や資料(写真パネルなど)を一挙展示して紹介します。



公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターの現地説明会や埋蔵文化財セミナーなどの催し物は、下記のホームページでもご案内しています。

<http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

〒 617-0002 向日市寺戸町南垣内 40 番の 3

Tel (075) 933-3877 (代表) Fax (075) 922-1189